

## 式辞の前に

長くなつてはいけませんが、式辞の前に一言申し上げます。式辞は入学生142名と保護者の方々に心からのお祝いと歓迎の気持ちで、以前から準備してきて参りました。刻々と変わる状況の中、手直しをしてきましたが、ここにきて七都府県に政府の緊急事態宣言が出されるなか、京都市も大きく動きました。

まずは、新入生、保護者の皆様が不安ななか入学式を迎えておられることを申し訳なく思っております。

式の内容、その後のこと、時間等、例年とは違うことが多々ありますが、ご容赦のほどよろしくお願い致します。

## 式 辞

春は、草木に新しい息吹を吹き込み、私たちに生きる喜びを感じさせてくれます。また、春には、『出発』という言葉がよく似合います。

一四二名の新入生の皆さん、本日は、入学、おめでとうございます。

保護者の皆様、お子達の入学誠におめでとうございます。

また、今回ご来賓の方々には、参列していただかないことになりましたことをお詫び申し上げます。平素は、本校教育推進にご尽力賜り、有り難うございます。高い所からではありますが、この場を借りまして御礼申し上げます。

入学や卒業は人生の節目です。節目は成長の時です。思春期は一般に反抗期と言われますが、新たな成長、成熟のときとも言えます。時に痛みを伴うこともあります。が、教職員一同、この時期に関われることの責任の大きさに襟を正しています。

世界三十カ国以上を車椅子で一人旅をされた、「車椅子トラベラー」三代（みよ）達也さんという方がおられます。高校生のときにバイク事故で頸椎損傷という大怪我をされました。彼は今、自分の生き方を通して同じような境遇にある人たちが、勇気を得られたことに喜びと使命を感じています。彼の好きな言葉は、「NO RAIN、NO RAINBOW」《雨が降るから虹がかかるんだよ》です。トラブルや友人関係の悩み等マイナスの経験が今の充実した毎日、つまり虹につながっていると体験から言われています。なぜ自分がこんな目に遭うのかと思うことは人生にやってきます。しかし、それが虹になるのです。「人生に無駄なし」です。

新入生の皆さん、失敗を恐れず果敢に挑戦する生き方、新しい世界に一步踏み出してください。

さて、人は何から、どういうことから学ぶのでしょうか。三つの言葉を贈ります。

一つめは、「人」との出会いです。人は支えられ、支え、共に生きています。今までの友人も大切にしておいて、これから出会う人にも心を開いて一生続く友人をつくってください。

二つ目は、「本」からの学びです。一冊の本が、言葉が、人生を根底から変えることもあるのです。読書は、時代と住んでいる地域を越えて、生きる力、心の栄養を与えてくれます。

三つ目は、「旅」です。非日常の体験です。西京区を出る、京都を出る、日本全国、そして世界に出る、パソコンやスマホでは味わえない匂いや風、身体全体で、五感で感じる体験です。

大人へ向かって進む激動の中学校時代、これら三つを心に留めておいてほしいと願っています。

「人」「本」「旅」です。

今、我々は、新型コロナウイルスの脅威脅威のみならず、世界各地で起こる異常気象、天災、紛争等、この先世界がどのようなになるか予測が難しい時代に生きています。求められるのは、「どんな変化にも対応できる力」とともに、「変化そのものを生み出す力」、つまり、人

と協働して、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を創っていくかということです。

人間性を高める、人間力をつけることです。

保護者の皆様、松尾中学校での三年間が、これらを育み、よりよく生きる人生の基になりますよう、大切なお子達により良い未来のために、教職員一丸となって努めて参ります。

最後になりますが、新入生の皆さん、何かができる、できないということではなく、一人一人の存在そのものが、ご家族はじめ関わりのある方の喜びです。人と比べず、今日生きていること、生かされていることを感謝して楽しい学校生活を送ってください。

これをもって、私の式辞といたします。

令和二年四月七日

京都市立松尾中学校

校長 鈴木 克治